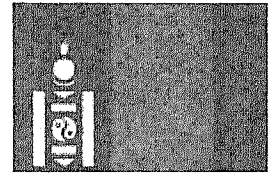


世界の子ども達

- 担当教科：英語科
- 実践教科：総合的な学習の時間、道徳
- 時間数：11時間
- 対象：中学3年生
- 対象人数：216名



Mongolia

埼玉県

沼尾 悠

さいたま市立大砂土中学校

〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・世界の状況を自ら調べ、問題の背景を深く探ると共に、支援についても知る
- ・異文化に触れる
- ・世界の状況に触れ、経済の仕組みについて考える
- ・自分の生き方を考える

〔2〕授業の構成

| 時限 | テーマ、ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|-------------|---|--|---|
| 1 | 【世界がもし216人の村だったら】 ・世界の厳しい現状を知る ・今後の学習の展望を持つ (総合：学年全体) | ・「世界がもし100人の村だったら」を「216人」に変え、世界の状況を視認、体感する ・調べ学習についての説明をする | ・役割カード |
| 2 5 7 | 【「世界の子ども達」について調べまとめよう】 ・自分たちで世界の現状について調べ、発表する (総合：各クラス) | ・本やインターネット等を利用し、「世界の子ども達」についてまとめる ・クラス発表後、クラス代表が学年発表を行う | ・図書館、PC室等 ・模造紙、画用紙、ペン等 |
| 8 | 【モンゴル紹介】 ・文化の違いを知る ・経済の仕組みについて興味を持つ (総合：学年全体) | ・モンゴルクイズをする ・主要輸出入品目から、経済の仕組みの違いに気付かせる | ・パワーポイント 【教材①】 ・音楽「渡り鳥」 |
| 9 | 【世界経済の仕組みを体感しよう】 ・様々な問題の背景の一つとなる経済の仕組みについて気付く (総合：各クラス) | ・貿易ゲームをする ・振り返り | ・A4用紙 はさみ 鉛筆 定規 分度器 コンパス 模擬お札 |
| 10 | 【笑顔】 ・笑顔の持つ力に気付く ・自分の今の生き方を考える (道徳：各クラス) | ・笑顔の写真から笑顔の持つ力を考える | ・明治安田生命 CM 「しあわせな瞬間」の写真 ・明治安田生命 CM 「たった一つのたからもの」 |
| 11 | 【モンゴルで活躍する日本人】 ・現地で活躍している方達からのメッセージを聞き、自分の生き方について考える (道徳：各クラス) | ・一人1ピース持ち、パズルを完成させる ・モンゴルで国際協力に携わっている人たちのインタビュー映像を見て、自分の生き方を考える | ・写真を切り分けたパズル 【教材②】 ・インタビュー映像 |

(3) 授業の詳細

1時限目：【世界がもし216人の村だったら】 @体育館 学年全員が対象

| 活動内容 | ○生徒の反応 ◇備考等 |
|--|---|
| <p>・「今、これがなくなったら困る物って何？」 ・「生きる上で無くてはならない物って何？」 ・「世界では、どれくらいの人達がそれらを持っているのだろう？」</p> | <p>○お金、空気、友達、家、水、携帯等々 ○食べ物、家、お金、空気等々</p> |
| <p>・「食」「住」「栄養」「水」「おしゃべり」「襲撃」「字」というキーワードが書かれた『役割カード』を、世界でそのことについて困っている人口比を216人に置き換えて用意し、配った。 ・あるキーワードが書かれたカードを持った生徒を立たせ、世界でどれくらいの人があるかということについて困っているか視認した。 ・「字」は識字率と、なぜ読めないのかについて考え、また情報を得ることができないということについて考えた。</p> | <p>○「結構多い」「そうでもない」 ○教員「全員に参加して欲しかったので食、住、栄養、水についているんならに立ってもらったが、実際にはほとんどが重複しているはず。どう思うか？」→生徒「最悪」「生きていけない」 ○識字率について→生徒「教育を受けていない」「受けられない」「たまされる」 ◇「字」というキーワードを書いていないカードには例えば「テタと言われたら立ちなさい」と書き、立たせるというような事をして良かったと思う。</p> |
| <p>「君たちは情報を様々な方法で得ることができる」 ・「世界の状況についても知ることができる。では、これから『世界の子も達』というテーマでグループごとに調べていってもらいます。」 ・教員が作成した調べ学習例を見せ説明した。</p> | <p>○授業の感想として「飽きなかった」「実際に学年が世界だとして、どれくらいの人があるかということのはっきり見えてよかった」「日本にいる自分たちはラッキーだ」というようなものができた。 ◇世界の様々な状況について興味をもつことができた。</p> |

2～7時限目：【世界の子も達】について調べまとめよう】

| 活動内容 | ○生徒の反応 ◇備考等 |
|---|--|
| <p>・一クラス約4人ずつ9グループに分かれ、図書館、PC室等を利用し、世界の子も達の ①現状 ②背景 ③支援 について調べ、まとめ、発表した。 例：パレスチナ問題、アフガニスタン、少年兵について、ネパールの少年の一日、HIV・AIDS、国境無き医師団について等</p> | <p>○調べ学習、また他グループの発表を聞いての感想「問題には宗教、歴史、資源の奪い合い、外国との関係等、複雑な背景がからみあっていることを知った」「自分たちができる支援として、募金以外に何をすればいいかわからない」 ◇悲惨な状況ばかりを調べ、暗く終わらないように、様々な状況下で行われている支援について深く調べたかったが、背景の複雑さにはまり、支援を良く調べるまでにはなかなか至らなかった。 ◇9つもの異なった状況を背景から知ることができたのは良かった。</p> |

8時限目：【モンゴル紹介】 @体育館 学年全員が対象

| 活動内容 | ○生徒の反応 ◇備考等 |
|--|---|
| <p>・パワーポイント【教材①】を使いモンゴルクイズを行った。 ・輸出入品目の日本とモンゴルの違いから、産業構造、世界経済の仕組みへと話をふった。</p> | <p>◇文化の違いから、世界経済への展開が急すぎた。 ○「モンゴルは思っていた以上に発展していた」「都会的な街もあり驚いた」「知らないことがいっぱいだった」「ソーラーもバイクもケータイもあるなんてびっくり」「ゲルという家で移動しながら生活していて、自分たちとはまったく違う生活なんだと思った」「モンゴルでは身近にあるものを工夫して使うなど、日本が見習うべく部分がある」</p> |

9時限目：【世界経済の仕組みを体感しよう】 開発教育協会発行「新・貿易ゲーム」を参考に

| 活動内容 | ○生徒の反応 ◇備考等 |
|---|---|
| <p>・2人ずつ2組の銀行を設置、その他の生徒を4人ずつの8つの国としてわけた。</p> <p>・「以下のルールのもとで、頑張って製品を作り、買ってくれる国を探そう」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ルール</p> <p>▽以下の製品を作り売りましょう。一辺7cmの正三角形、直径13cmの円、7cm x 12cmの長方形</p> <p>▽製品はすべてハサミを使い、縁をきれいに型どおりに切り取り取ってください。</p> <p>▽大きさは一覧に示されているとおりの大きさにしなければなりません。</p> <p>▽自分のハサミ、ペンなどの道具は使ってはいけません。</p> <p>▽戦争をおこし、力づくで道具を奪ってはいけません。</p> <p>▽他グループの道具を盗んではいけません。</p> <p>▽50万円以上お金をためること。</p> <p>▽国外に出ていいのは2人のみ。</p> </div> | <p>○何をしたいかわからない</p> <p>○ハサミやコンパスを売ってしまう</p> <p>○両面印刷の紙を探し、安値で買う</p> <p>○同盟を組み、一つのハサミを共有して製作</p> |
| | <p>先進国と銀行に伝えておく情報</p> <p>▽正三角形は2万円、長方形は3万円、円は8万円で銀行が買い取ってくれます。</p> <p>▽あなたたちは一番お金を持っています。</p> <p>▽他のチームにはハサミ、コンパスはありません。分度器がないチームもたくさんあります。</p> <p>▽他の国民を労働力として使うことも可能です。</p> <p>▽両面印刷の紙で製品を作ると相場の3倍で銀行に売ることができます。</p> <p>以上の情報はあなた方ともう1チームしか知りません。</p> |
| <p>・ゲームの振り返りとして、</p> <p>どのように感じたか、</p> <p>どのような差が最初からあったのか、</p> <p>それを知った今、どう思うか等</p> | <p>○途上国チーム「何もないので無力感、疎外感」「ずるい、だまされた感じがした」「取り残されている感じ」「利用されている」「考えることもできなかった」「日本は資源が少ないので、多い国と手をつなげばお互いに発展できる」「となりの国と協力したら、たくさん製品をつくることのできた」「先進国は相手の気持ちを考えた方がいい」「他の国と協力することが大切だ」「戦争が起こる理由がわかった」</p> <p>○先進国チーム「みんな情報を知らないなので、両面印刷の紙を安値で売ってくれて、高く売れたのでとても良い気分だった」「終わったあとのみんなの目がとてもこわかった」「楽しかった。しかし授業の終わりには周りからの批判もひどく、このままでいいのかと思う部分もあった」</p> |
| <p>・全体の感想</p> | <p>◇先進国が途上国に作らせて、安く買い、銀行に高く売るという流れを作りたかったが、途上国も作ったら銀行に売ることがなんとなくわかるらしく、そこはうまくいかなかった。</p> |

| 各国の開始時の状況 | 先進国(2チーム) | 途上国 A(1チーム) | 途上国 A'(1チーム) | 途上国 B(2チーム) | 途上国 B'(2チーム) |
|-------------|-----------|-------------|--------------|-------------|--------------|
| 資金 | 10万 | 6万 | 2千円 | 2千円 | 2千円 |
| 資源(A4の紙) | 1枚 | 5枚 | 2枚 | 2枚 | 4枚 |
| 資源(A4両面印刷紙) | 0枚 | 0枚 | 0枚 | 0枚 | 0枚 |
| 秘密の情報 | 有 | 無 | 無 | 無 | 無 |
| 技術(はさみ) | 3本 | 無 | 無 | 無 | 無 |
| 技術(コンパス) | 1つ | 無 | 無 | 無 | 無 |
| 技術(分度器) | 1つ | 1つ | 無 | 無 | 無 |
| 技術(定規) | 2本 | 1本 | 無 | 無 | 無 |
| 技術(えんぴつ) | 2本 | 無 | 無 | 1本 | 1本 |

10時限目：【笑顔】

| 活動内容 | ○生徒の反応 ◇備考等 |
|---|--|
| ・様々な笑顔の写真を黒板に貼る 「本日のテーマを当てよう」 | ○「ほほえみ」「わらい」「笑顔」 ◇状況、国籍等様々な笑顔が用意できるといい |
| ・「なぜこの人達は笑顔なのか？」 ・「誰に向けられた笑顔か？」 ・「笑顔を向けられた人はどんな気持ちか？」 ・「笑顔を失う時はどんな時か？」 紛争や難民等の写真で、笑顔を失っているものを黒板に貼り、状況を説明した。 | ○「楽しいから」「仲間がいるから」「一緒にいられるから」 「兄弟が生まれたから」「生きているから」 ○「家族」「友人」「親しい人」「笑って欲しい人」 「一緒にいる人」「なかなか会えない人」「自分」 ○「愉快」「優しい気持ち」「笑い続けて欲しい」 「今日も一日頑張ろう」「笑顔をくれて感謝」 ○「悲しい」「つらい」「大切なものを失った時」 |
| ・「笑顔ってどんな力を持っているのか？このビデオ（たった一つのたからもの）を見てみよう」 ・「笑顔にはどんな力があると思うか？」 ・「私たちにはそのような力があるのだ！」 | ◇明治安田生命のCM、秋雪くんというダウン症の子が 生きた6年間を数枚の写真と親の言葉で綴った映像。 秋雪くんと両親の幸せそうな笑顔が印象的。 ○「希望」「笑顔にさせる力」「生きる力」 |
| ・「授業の感想を書きましょう」 | ○「自分にもそんな力があるんだ」「自分の為にも人の為にも笑顔でいられるようになりたい」 |

11時限目：【モンゴルで活躍する日本人】

| 活動内容 | ○生徒の反応 ◇備考等 |
|--|---|
| ・写真3枚をA4にプリントし、はさみで適当に12分割し36ピースをクラスで一人一人にバラバラに配り、パズルとして3枚の写真に戻した。【教材②】 | ◇モンゴルで撮影してきた、国際協力をして活躍している日本人の方達のインタビューを見るので、モンゴルを想い出す為に行った。また、公開授業だったため、生徒の緊張をほぐすために、アイスブレイキングとして行った。 ○積極的に声を掛け合い、3分ほどで3枚の写真を完成させた。 |
| ・モンゴルで撮影した、国際協力をして活躍している日本人の方達からのメッセージを視聴した。内容は実際のインタビューから抜粋し、①『国際協力の仕事に携わることになったきっかけ』②『日本の子ども達へのメッセージ』というものだった。 ・見学に来て頂いた、日系社会青年ボランティア経験者とJICA職員から生のメッセージを頂いた。 | ○「今日の授業を通して、世界の人とは共に生きているんだということを実感した」「人とのつながりがあるから、人は幸せに暮らすことができると思う」「人に優しくできる人間になりたい」「思いやる心、いつも笑顔を絶やさない心がけをしたい」「厳しい生活の中で人と協力して生きてきた子ども達こそが発展している」「今もテロは起き続けている。今までは目を背けるだけだったが、今はなぜ起きているのか原因を考えようと思う」「私はハーフだから、文化の違いで悩まされるけど、ハーフだから学べることもたくさんある。ハーフで良かった」「夢を追いたくても、できない人に失礼がないように一生懸命夢を追いかけて」「豊かな国にすんでいる僕たちの責任として貧しい国を豊かにするために何かをしなければいけない」「生きたくても生きられない子もいる。その子の分までちゃんと生きたい」 |
| ・「これまでの世界の状況から始まった全ての授業を受けて、自分が今をどう生きようと思うか、書いてみよう」 | |

【4】授業実践を終えて

今回は総合的な学習の時間と道徳を連動させることができた。できれば他にも学活や自分の担当教科とも連動させられたがそこまでは行けなかった。

参加型、体験型の授業がなかなかできなかったが、その中でも貿易ゲームでは生徒自身が頭、口、手、体を積極的に動かしての学習となり、コミュニケーションをはかりながら良い学習となった。

成果としては、国際的な問題をしっかりと見つめ、日本という国に生活している私達の責任をしっかりと背負い、足元から一歩一歩しっかりと歩いていくというところに帰結するという形を作ることができた。

〔5〕 参考文献（引用文献・参考資料）

- 『新ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』 開発教育協会 2006
- 「Ayany shuvuu（渡り鳥）」 CD『モンゴルからの風2 ゴビのひびき』
ドルノゴビ県立音楽ドラマサラン・フフー演奏
- 『新・貿易ゲーム [改訂版]』 開発教育協会 2001
- 『たった一つのたからもの』 明治安田生命 CM

〔6〕 使用教材

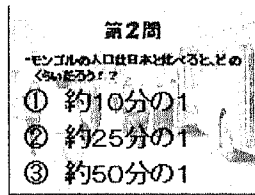
【教材①】 パワーポイントを使用し、クイズを作成



モンゴルクイズ!



第1問
モンゴルの首都はどこですか？



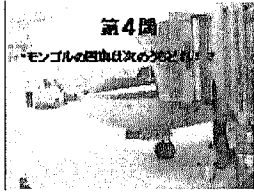
第2問
モンゴルの人口は日本と比べるとどのくらい多いですか？

① 約10分の1
② 約25分の1
③ 約50分の1

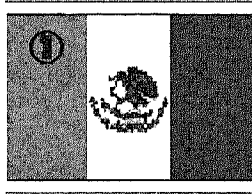


第3問
日本のモンゴルの面積は日本と比べるとどれくらい多いですか？

① 約2倍
② 約4倍
③ 約8倍



第4問
モンゴルの国産品は次のうちどれですか？



第5問
モンゴルの国旗は次のうちどれですか？



第6問
この動物は蒙古馬と呼ばれていますか？

① パオ
② ゲル
③ シュラフ



第7問
モンゴルで人気のスポーツはどれですか？

弓矢
ツバメ



第8問
モンゴルの伝統的な住居はどれですか？

① サインパエナー！
② オラ
③ ショラフ



第9問
この動物は蒙古馬と呼ばれていますか？

① パオ
② ゲル
③ シュラフ



第10問
モンゴルの伝統的な住居はどれですか？

① 木の柱
② 小石
③ 草




第11問
蒙古馬の産地はどこですか？

① チマチゴリ
② デール
③ キルト



第12問
モンゴルの伝統的な住居はどれですか？

① 木の柱
② 小石
③ 草



第13問
モンゴルの伝統的な住居はどれですか？

① 木の柱
② 小石
③ 草



第14問
モンゴルの伝統的な住居はどれですか？

① 木の柱
② 小石
③ 草



第15問
モンゴルの伝統的な住居はどれですか？

① 木の柱
② 小石
③ 草



第16問
モンゴルの伝統的な住居はどれですか？

① 木の柱
② 小石
③ 草



第17問
モンゴルの伝統的な住居はどれですか？

① 木の柱
② 小石
③ 草



第18問
モンゴルの伝統的な住居はどれですか？

① 木の柱
② 小石
③ 草




日本とモンゴルの輸出品目

| | |
|-----|------|
| 日本 | モンゴル |
| 機械品 | 絹織物 |
| 自動車 | 畜産品 |



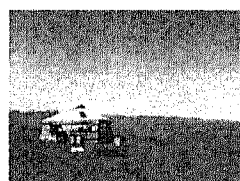
日本とモンゴルの輸入品目

| | |
|----|------|
| 日本 | モンゴル |
| 原油 | 燃料 |
| 機械 | 機械 |

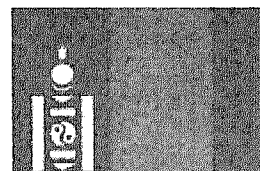




【教材②】 以下の写真をA4の紙にプリントし、12分割し、パズルにした。



国際協力という生き方



Mongolia

埼玉県

鎌田 葉子

埼玉県立伊奈学園総合高等学校

- 担当教科：国語科
- 実践教科：総合的な学習の時間
- 時間数：3時間
- 対象：高校1年生
- 対象人数：75名（2クラス）

〔1〕授業実践のテーマ・目的

「人生について考える」

- ・自己実現と他者との共生について、広い視野で考える視点を育てる。
- ・モンゴルの事例を通して、世界に対する関心を高める。
- ・国際的な視野で働いている日本人が多くいることを知り、個人の人生の中に国際的な観点を取り入れる契機とさせる。

〔2〕授業の構成

| 時限 | テーマ、ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|----|--|--|--|
| 1 | 【リアル人生ゲーム】 人生選択の際の自分の価値観を知る。 | ・LIFE R.P.G (ロールプレイングゲーム) ボードを使ってこれからの人生を疑似体験する。 | ・LIFE R.P.G (ロールプレイングゲーム) ボード ・サイコロ ・ワークシート |
| 2 | 【さまざまな価値観】 ・自分が持つ価値観を認識し、他者の価値観を知り、自分の人生をよりよくするとともに他者と共生する上で必要なことについて考える。 | ・価値観ワークシートを用いて自分の価値観に順位を付ける。 ・グループになって個人の価値観を発表しあった上で、グループとして価値観に順位を付ける。 ・グループの結果を発表する。 ・モンゴルの子ども達の結果と比較し、類似点、相違点、そうなる理由を考える。 | ・価値観ワークシート ・価値観カード ・結果記入一覧表 ・モンゴルの地図・写真 ・モンゴル紹介プリント ・モンゴル人の結果一覧表 ・上質紙・付箋・マジック |
| 3 | 【国際協力という生き方】 ・モンゴルの現状を知ることを通じて、相手の立場に立った協力とは何かを考える。 ・自分も楽しく他者とも気持ち良く共生するために、国際協力という分野で活躍している人がいることを知る。 | ・モンゴルの諺を手がかりに、現代モンゴルに至る歴史をふまえ、マンホールチルドレンの存在とその社会背景を知る。 ・孤児が生まれる貧困のサイクルとこれを断ち切る方法について、グループで考える。 ・モンゴルで国際協力の仕事に携わっている人のインタビュー DVD を視聴する。 | ・パワーポイント ・モンゴルの紙幣 ・インスタントモンゴル茶一包 ・モンゴル版貧困カード ・ホワイトボード ・付箋 ・インタビュー DVD ・ワークシート |

〔3〕 授業の詳細

1 時限目：【リアル人生ゲーム】 (HR 教室にて、クラス別実施)

「人生について考える」というテーマでの学習の1限目として、「LIFE R.P.G (ロールプレイングゲーム) ボード」を使って、「リアル人生ゲーム」と名付けた人生双六を男女混合グループで行った。この先の人生に「どんなことが起こり得るのか」概要を知り、人生の節目の出来事に対して、大切にしたい価値観と犠牲にした価値観とを意識しながら、人生の分かれ道を選択していく。そして、人生のゴールで、自分はどんな価値観で生きてきたのかを振り返った。途中の分岐点では、自分の進め方だけでなく、グループ内の他の人がどのように進めているかにも注意を払うよう促し、結果を共有させるようにした。大学へ入るのに2浪したり、リストラされたり、会社を起こしたり、でも不況でつぶれたり、結婚・離婚・再婚・子どものお受験があったりと、現代日本をかなりリアルに体感する内容で、挙げ句の果ての老後も、健康幸福の人もいれば、病気がち・貧乏孤独の人もおり、シビアな結果に各グループとも大盛り上がりの一時間だった。普段あまり意識していない自分の判断基準を改めて認識したようである。

生徒の感想

- ゲームがリアルで怖かったです。人生にはいろんな事があるんだなあと思いました。(女子)
- 結婚できなくて残念だった。選ぶ所をすごく迷った。これが本当の人生だったらすごく大変そう。(男子)
- いろいろな考えの人がいて驚いた。人生選択の参考になった。柔軟なものの考え方が必要だと思った。これからの人生で失敗しても落ち着いて進んでいけたらと思う。(女子)
- こんなに簡単に人生が進行するとは思いませんが、人生の流れがわかりました。(男子)
- そのうち考えようと思っていたことを目の前に突きつけられて、自分の将来について、もっと真剣に考えたいと思いました。(女子)
- ゲームの後、結果を見たら、結構仕事中心の生活で、自分でもびっくりした。こういう風に人生について考えることはなかなか無いのでおもしろかった。(女子)

2 時限目：【さまざまな価値観】 (HR 教室にて、クラス別実施)

前時の「リアル人生ゲーム」で、人生のいろいろな局面を疑似体験し、それぞれの局面での選択の判断基準に、各自の価値観が影響することを学んだ。生きていく上で大切に考えているものは人によって違う。今回はその違いを改めて認識させ、お互いの考えを尊重することを目的とした。クラスメイトという身近な他者に加えて、同時代を生きるモンゴルの子供達の価値観も知ることによって、価値観の幅を広げる一助とさせた。

- ①自分の価値観を知る。
 - ・ワークシートを配布し、11の価値観（「正義」「生命」「家族」「学力」「恋愛」「平等」「友情」「自由」「健康」「環境」「経済」）についていくつか具体的に対比させながら補足説明をし、その上で個人の優先順位を記入させた。
- ②グループの価値観を決める。
 - ・グループを組み、一人ずつ、価値観の順位とそう考える理由を発表させた。
 - ・お互いの発表を聞いた上で、改めてグループとしての順位を話し合っ決めて。
 - ・グループでの話し合いの結果を、黒板に貼った模造紙の一覧表に記入させた。
- ③グループ間の比較とともに、モンゴルの子供達の話合いの結果と比較する。
 - ・モンゴルの地理・気候・風土などを、地図・写真・紹介プリント等を用いて簡潔に説明。
 - ・その上で、モンゴルの子供達が同じ話し合いをした結果の一覧表を提示した。（1位「健康」・2位「生命」・3位「自由」・以下「環境」「正義」「友情」「家族」「恋愛」「学力」「経済」の順）
 - ・共通点・相違点・結果の異同の理由を考えさせ、色別の付箋に思いつく限り書かせて、シートに貼ってグループ内で閲覧、共有した。

生徒の感想

- 自分の価値観と友達の価値観が大きく違っていたので驚きました。他のグループの結果にもかなり驚きました。でも、自分の価値観を大切にしていきたいです。(男子)
- 発表したとき予想以上に順位がばらけた。自分の中で、他人に対して勝手に自分の価値観を当てはめてしまう場面もあったと思った。似ている人はいても全く同じ人はいなかったの、価値観は個人の成長過程により変化するのだと思う。(女子)
- モンゴルの人たちとの違いは生活環境の違いだと思う。これからは自分の意志だけでなく、他の人の考えも尊重していきたいです(男子)
- 途中の部分ではみんなそれぞれ違っていたので意見を出し合った。このように議論をしているとそれぞれの理由が自分の納得するようなものばかりでおもしろかった。(男子)
- モンゴルの人と「環境」と「経済」のとらえ方が真逆だった。住んでいる環境が違くと価値観も変わってくるのかなと思った。(女子)

3時限目：【国際協力という生き方】 （2クラス合同、大会議室にて実施）

前時のグループ討議で、自分の価値観・近くの他者としてクラスメイトの価値観・遠くの他者としてモンゴルの子供達の価値観を比較、認識させた。引き続きモンゴルの事例を通じ、犠牲的精神ではなく、ライフワークの一つとして自然に、国際協力という分野で活躍しているたくさんの日本人の姿を見せ、ややもすると自分とは関係がないものと思いがちな国際協力に対して、身近な共生の延長上にあるということを考えさせた。

- ①モンゴルの現在を知る。(パワーポイント使用)
 - ・モンゴルの諺「100Tgより100人の友達」を手がかりに考える。
 - ・諺が成り立つ前提条件（「100Tgには相当の価値があるはず」ということ）を考えるのをきっかけに、この諺が名実共に成り立っていた社会主義体制時代から現在の市場経済への移行と、その際の通貨価値の大暴落の状況を知らせる。
 - ・実際の100Tg紙幣を配布し「モンゴルクイズ」を行う。
- Q「現在この100Tg紙幣1枚で何を買えるでしょうか。」

- A「インスタントツーツァイ（モンゴル茶）1包」
 - ・お茶の実物も示し、たったこれだけと言うことを実感させ、通貨の大暴落を認識させた。この時期からモンゴルにとって特に海外からの援助が重要になったことを伝える。

- ②現在のウランバートルの状況を伝える。(パワーポイント使用)
 - ・首都は栄えていること、しかしスラムがあること、マンホールチルドレンが存在することを伝える。
 - ・笑顔の子供とマンホールチルドレンの子供の写真を提示し、共通点を考えさせる。
 - ・ヒントとして孤児院の写真を見せ、笑顔の子供も実は孤児であること、経済危機のあとの異常気象によって、多数の遊牧民が食い詰めて首都に押し寄せ、貧困と孤児の増大がウランバートルで社会問題化していることを伝える。

- ③貧困の連鎖について考える。
 - ・孤児が生まれてしまうサイクルをグループで推理させる。その後、ホワイトボードに解答を示す。
 - ・この連鎖を断ち切るためにどうすればよいかを考えさせる。
 - ・グループで意見を出し合い、1グループ1つ、具体案を付箋に書いて提出する。
 - ・ホワイトボード上の、連鎖を断ち切りたい所に付箋を貼り、読み上げて対策を共有する。
 - ・事実を知り、解決法を話し合う、この作業自体が既に国際協力のそのものであること申し添える。

- ④青年海外協力隊はじめ、モンゴルで実際に活動している方々のインタビューDVDを視聴する。
- ⑤2004～2006年に青年海外協力隊として南アフリカで数学を教えていた本校教諭を紹介する。

生徒の感想

- モンゴルにはたくさんの失業者や、ストリートチルドレンがいるということや、そういう人を助けるために青年海外協力隊などの、国際協力をしているところがたくさんあることがわかりました。今起きている問題が簡単には解決できないことなのだと実感しました。(男子)

- 私が今まで抱いていたモンゴルのイメージを覆すようなことを学んだ。マンホールチルドレンのことも初めて知った。外国からの支援も多くあることを知り、協力して共生していくことが大事と改めて学んだ。(女子)
- モンゴルは貧困の差がとても激しいと思った。今の自分はいろんな悩みがあるが、モンゴルの人にとってはとても小さいことだと思った。(男子)
- 8枚のカードを並べ替えるのは、思ったよりも頭を使った。また、負の連鎖を止める方法が1つだけではないのが興味深かった。(男子)
- 今回の学習は、写真やカードを使ったりしてわかりやすく楽しかったが、この学習がただ楽しいで終わってしまいたくないと、自分は考えるけれど、他の人がどう受け止めてくれているかが気になる。(女子)

(4) 授業実践を終えて

今年度担当する高校1年生のキャリア教育のヒントを得たいと、この教師海外研修に参加した。事前研修する中で、モンゴルの子どもたちと自分の受け持つ生徒たちに、同じ授業をしてみると何かつかめるかもしれないと思い立ち、同じグループの先生方とも協力して「さまざまな価値観」の模擬授業をモンゴル国立孤児院の子供たちとの交流会の一端としてやらせていただいた。多少年齢の違いもあった

が、(モンゴル:10歳~16歳、日本:高校1年生)、モンゴルでは子どもたちの学習に対する熱心さに心打たれた。

自校の生徒たちに対する授業に関しては、「時間が足りなかった」の一言である。「人生について考えさせる」という大きなテーマ、かつその中に「国際的な視野を育てる」という大きな目標を持っていたにもかかわらず、3時間しか時間を確保できなかったことが悔やまれる。2時限目、3時限目はそれぞれ2時間ずつ必要、最低でも合計5時間はないと消化不良で、生徒の中には何をやらされたのかが良くわからなかった者もいたと思う。高校生なので、たくさん詰め込んで早い展開をした方が、興味を引きつけられるかもという目論見があったが、残念ながら、見事に裏目に出た。やはり、じっくり考えさせるには、必要最低限の時間というものがあることを思い知らされた。ただ、生徒たちがモンゴルという他国にはかなり関心を持ってくれた様子が、感想を見ると良くわかり、それはせめてもの救いである。今後、HRや教科に時間の中でさりげなく「つづき」を行い、「国際的な視野を持たせる」という目標に関して、語りきれなかった部分を少しずつでも語っていきたいと考えている。

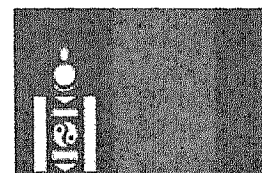
(5) 参考文献(引用文献・参考資料)

- 『ソーシャルスキルが身につくレクチャー&ワークシート』 西村宣幸 学事出版 2008
- 『そろそろ旅へ モンゴルのおすそわけ』 岸本葉子 東京書籍 2007
- 『教育の職人』 <http://www.pat.hi-ho.ne.jp/nobu-nisi/>
西村宣幸 (2009/6/1 アクセス)
- 『NGOゆいまーるハミングバース』 <http://www.yuimar.org/>
照屋朋子 (2009/8/23 アクセス)

(6) 使用教材

- 参考文献を参照して改変・制作したワークシート3枚
- 参考文献中のモンゴル地図
- モンゴルで撮影した写真15枚と文字画面で構成したパワーポイント
- DVD 『平成21年度 教師海外研修 ~モンゴル~』 作成者:モンゴル研修メンバー・森裕紀子

同じ？違う？どう思う？



Mongolia

千葉県

久保田 縁

千葉県立成田国際高等学校

- 担当教科：英語
- 実践教科：総合英語
- 時間数：2時間×3クラス
- 対象：高校1年生
- 対象人数：122名

〔1〕授業実践のテーマ・目的

・モンゴルと日本を比較し、文化の「違い」や身近にある「違い」を通してさまざまな考え方を学ぶ

〔2〕授業の構成

| 時限 | テーマ、ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|----|---|---|--|
| 1 | 【モンゴルについて知ろう】 モンゴルについて知るとともに、ホームステイの留意点について考える | <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの写真の中から好きなものを選び、その理由を考える ・モンゴルの話を聞く ・ホームステイのロールプレイングをする ・ホームステイの留意点を話し合い、紙にまとめる | <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの写真 ・パワーポイント ・ロールプレイング用台本 ・役割カード ・紙 |
| 2 | 【あなたの隣の人の価値観って？】 クラスの友達の価値観を知る | <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルのある中学生の一日と自分の一日を比べ、ペアで話し合う ・価値観のランク付けをする ・モンゴル事務所で働く職員の方のメッセージビデオを見る | <ul style="list-style-type: none"> ・一日の様子シート ・価値観のプリント ・価値観の言葉カード ・ビデオ |

〔3〕授業の詳細

1 時限目：【モンゴルについて知ろう】

あらかじめ4、5人で一班作るように指示し、導入として遊牧民の生活の様子の写真を各班に7枚用意した。好きなものを各自1枚選び、なぜその写真が好きか、どんな場面か、そして気づいたことなどを聞いた。電気はどうしていると思うか、と聞いたときの反応が大きかった。

写真の内容

- 料理：①ウルム(乳製品)作り ②うどん作り
③ボース(餃子)作り
ゲル：④パラボラアンテナと自転車が写っているもの
⑤そうでないもの
人：⑥シャガイ(羊の骨)で遊んでいるもの
⑦ステイ先の方々とのもの

モンゴルの写真 (一部)



うどん作り



ボース(餃子)作り

次に、パワーポイントを使いながらモンゴルの地図、国旗、ウランバートルの写真などを示し、モンゴルについて説明した。導入の写真がすべて遊牧民の生活の様子だったため、近代的なウランバートルとの違いに驚く生徒が多かった。

最後に、ホームステイの台本に沿って、ロールプレイングを行った。それぞれの役割カードの登場人物のセリフを読み終わってから、何が問題か、どうすれば解決するか、を話し合うように指示した。

生徒の感想

- モンゴルの文化が少しわかって良かった。そんなに遠い国じゃないのに日本と大きく文化が違っていて、驚くとともに他の国の人の文化ももっと知りたいと思った。
- コミュニケーションをとるためにはいろいろと積極的に行動しなくてはと思った。
- 国によってそれぞれの文化や習慣があるので、もしホームステイに行くのだったら事前にその国について知っておくことが必要だと思った。また受け入れる方も、気配りが大切なんだと思う。
- どうしても人間には固定観念というものがあると思う。今回モンゴルの様子とか見て自分もかなり驚いていた。これからもっと沢山のこと(事実)を学ばなくてはと思った。

2 時限目：【隣の人の価値観って？】

主導入としてモンゴルのある中学生の一日と自分の生活を比べて、ペアで違うところと同じところや似ているところを確認するようにした。起きる時間やテレビを見る時間などを全体に聞いた。

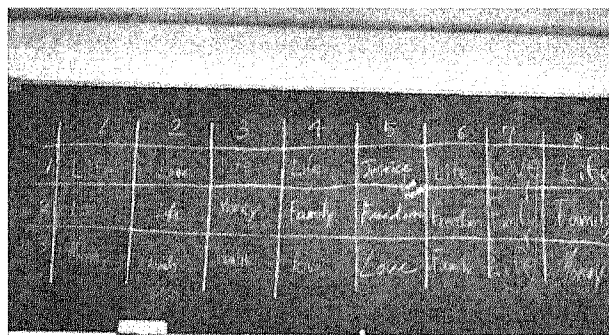
次に 11 の価値観 (「Justice」「Life」「Family」「Academic ability」「Love」「Money」「Equality」「Friendship」「Freedom」「Health」「Nature」) をランク付けするように指示した。わかりにくいものはプリントに説明を書きおいたが、特に定義付けはせず、生徒たちが自由に考えるようにした。まずは自分でランキングし、次に班での順位を付けるように話し合うことを指示した。その後生徒たちは 1、2、3 位になったものだけ黒板に書き、なぜその順番になったのかを発表した。

最後にモンゴル事務所働く JICA の職員のメッセージ映像を見た。また、モンゴルで行った同じ価

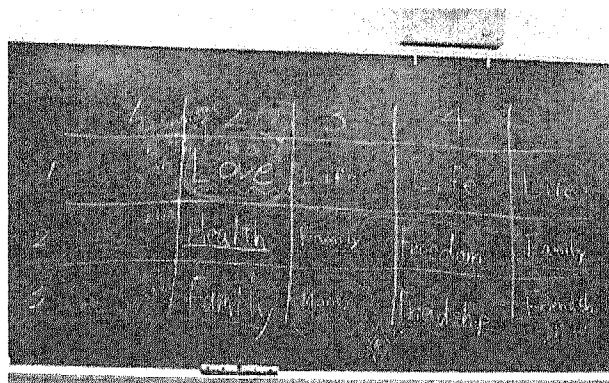
値観のランキング結果を伝え、価値観の違いは国や文化の違いから起こることもあるが、それだけではないのではないかと、ということ話をした。

生徒の感想

- もっともっといろいろな人に出て、その人の価値観や考え方を学びたいと思った。そのために、いろいろなことにチャレンジして自分をもっと成長させたいと思った。
- クラスの 41 人で意見を出し合ったが、たいがい大切なものは「生命」「家族」「友情」などだった。普段生活する上では当たり前のことだけど、みんな心の中では大切にしていることだとわかった。とても素敵なことだと思った。
- 今日の授業で感じたことは、やっぱり、一人ひとりが考えている一番大切なこと、大事なことってというのはみんな違うと思った。だから、何を大事にして生きていくか、これからどうするかというのを改めて考えさせられた。
- “Life” や “Freedom” はどこに行っても大切だし、国や文化が違ったとしても、価値観の違いや、何に幸せを見出すかの違いは友達同士でも起こることだから、結局は同じ人間で大した変わりはないのだなと思った。
- 大切なものや人に順位を付けるのは少し嫌だったけど、いろいろと考えることができて良かった。人はみんな違う性格だけど、同じ人間なんだと思った。



各班の結果①



各班の結果②

〔4〕授業実践を終えて

「以前に差別を扱った単元を学習しており、そのときに自分たちの中にある固定観念の話をしてきた。そのことを踏まえ、1時限目の授業ではモンゴルという国に対して教師自身が固定観念を持っていた、と話したところ、同様に自分の中にあるモンゴルに対する固定観念に気づいた生徒もいたようだった。ホームステイのロールプレイングではお互いを「知る」ことの重要性をどの班も話していたのだが、各班の問題の解決策について全体で深められなかったことが悔やまれる。

また、2時限目の授業については、価値観の順位付けにはどの班も理由に詰まり、考え込んでいた。中には他人と違う順序に戸惑う生徒もいたが、話し合いで何かの形にしようとしていた姿が印象的だった。「愛」から「家族」「友達」など他の言葉も含まれるのではないかと、という意見を出した班もあった。

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

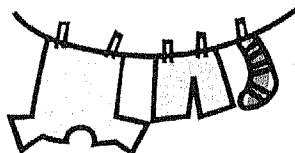
- 『先生とNGOが手をつないだ！地域でつくる国際理解教育—学習プログラム案作成報告書—』
財団法人福島県国際交流協会 2008
- 『地球の歩き方 モンゴル』 地球の歩き方編集室 ダイアモンド社 2009
- 『モンゴルンルン』 太田千絵 イカロス出版 2008
- 『地図を活用する人の総合サイト』 三角形データ再利用工房 2009/11 (<http://www.freemap.jp>)
- 『Quick Maps of the World』
Photius Coutsoukis, Information Technology Associates 2009/11 (<http://www.theodora.com/maps/#M>)

〔6〕使用教材

〔ロールプレイング用台本〕

【Character】

Lynne; host mother
Ken; host father
Arisa; student
Alan; student
Bibit; student



【Story】

Arisa, Alan, and Bibit are international students who are staying with a family in one country. They have finished their first day at school.

Lynne; How was your day?

Arisa; It was nice. There were many students from other countries. I made many friends today.

Alan; I was nervous at first, but the teachers were kind and I enjoyed classes with other students.

Bibit; I am a bit tired, so I would like to go to bed early tonight.

Ken; Oh, you studied hard today.

Arisa; It was hot today. Can I take a bath now?

Lynne; Yes, but can you just use a shower? We usually do not take baths.

Arisa; Oh, I used to take baths, not take showers, so I would like to take bath.

Alan; I don't take baths every day, but today I sweated because of cycling, so I would like to wash my shirts.

Bibit; Me, too. I would like to wash all of my clothes.

Lynne; In my country, we don't have much water. So, we usually take showers. And we can't do washing many times.

Arisa; Oh. I see. In my country some areas have water restrictions in summer time, but not often.

Ken; We have water restrictions many times in a year, and we have decided to the water amount for each family. So, I would like you to understand our situation.

Alan; Water is precious in this country.

Bibit; Yes, I have to be careful when I use water.

Arisa; I see. I take a shower, and I don't waste water, too!

添付3 価値観のプリント

What is important for you?

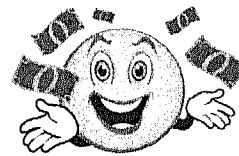
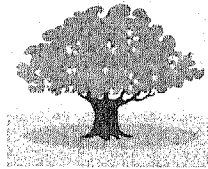
Class () Number () Name ()

I. Ranking

There are eleven words about values. Please rank order of these words.
(1: the most important word for you.)

- Justice (I understand what is right and bad)
- Life
- Family
- Academic ability (I study for my dreams come true.)
- Love
- Money
- Equality
- Friendship
- Freedom (I do whatever I want, and I say whatever I want to say.)
- Health
- Nature

| | |
|----|--|
| 1 | |
| 2 | |
| 3 | |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | |
| 7 | |
| 8 | |
| 9 | |
| 10 | |
| 11 | |



II. Reason

Why did you choose the words as your most, second and third important words? Please write the reasons.

| | |
|---|--|
| 1 | |
| 2 | |
| 3 | |

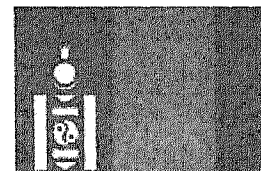
III. Group talk

How is your group members' ranking? Please talk about it and decide the most, second, and third important words in your groups.

- 1: Decide the chairperson and presenter. (Presenter will talk about the ranking later.)
- 2: Talk about the ranking.
- 3: Write your groups' results on the blackboard.

ODAを考える

- 担当教科：公民
- 実践教科：政治・経済
- 時間数：8時間
- 対象：高校2年生
- 対象人数：316名



Mongolia

千葉県

藤井 剛

千葉県立千葉高等学校

(1) 授業実践のテーマ・目的

「ODAを計画しよう！」

- ①途上国の現状を調べ、被援助国・国民にとってよりよい援助を考えることにより、開発援助に関する理解を深め、将来のODAを考察する。
- ②生徒は資料を用いて現地のニーズを多面的・多角的に調べ、また援助計画のプレゼンテーションを行うことでプレゼンテーション能力の向上を図る。
- ③現地の実情に詳しい方を審査員として招聘し、プレゼンテーションへの講評を通して自分たちの計画を振り返り、さらに当該国に関する講義を審査員から受けることにより、途上国の現状を理解する。

(2) 授業の構成

| 時限 | テーマ、ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|-------------|---------------------------------------|--|--|
| 1 | 【ODAとは何か】 海外協力のしくみとその現状や課題を知る。 | ①わが国の海外協力を例に、ODAのしくみを理解する。 ②「ODAの対GNI比」や「ODAの条件比較」などの資料を用いて、現状と課題を理解する。 | ・資料集 ・【プリント①】(参考書等からの大量の印刷なので掲載を省略) |
| 2 | 【授業の説明と調査開始】 この授業の目的・流れなどの説明を行う。 | ①プリントを使いながら、この授業の目的、流れなどを確認する。 ②説明後、生徒たちは調査を開始する。 | ・【プリント②】 ・PC |
| 3 | 【DVD視聴と調査】 当該国やODAの具体的なイメージを持たせる。 | ①当該国やODAの具体的なイメージを持たせるために、JICAの作成した「世界とともに」を視聴する。 ②調査を続ける。 | ・DVD「世界とともに」 ・PC |
| 4 5 6 | 【調査とプレゼン準備】 調査と同時にプレゼンの準備を行う。 | ①調査などの成果をまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。 | ・PC |
| 7 | 【プレゼンテーション】 各班、「ODA計画」をプレゼンする。 | ①各班、用意・後片付けを含め5分のプレゼンテーションを行う。 ②招聘した審査員と他の生徒たちは、プレゼンへの評価とコメントを行う。 | ・PCやプロジェクター等 ・パワーポイント資料 ・講評用紙など |
| 8 | 【講評と講義】 プレゼンの講評と当該国の講義を受け、計画を振り返る。 | ①プレゼンの講評と当該国の講義を受け、自分たちの援助計画を振り返る。 | ・PCやプロジェクター等 ・パワーポイント資料 |

(3) 授業の詳細

1 時限目：【ODA とは何か】

「ODA とは何か」の集中講義を行った。主な内容を次にあげる。

- ①「民間ベース」「政府ベース」、「NGO」「直接投資」、「ODA」「その他の政府資金」、「二国間」「国際機関」、「贈与」「円借款」、「無償資金協力」「技術協力」を、それぞれ具体例を挙げて説明した。
- ②「ODA」の定義や日本のODAの問題点（グラント・エレメント（特に贈与）が低い、アンタイト比率が DAC平均を下回っていること、DAC目標のGDI比0.70%を大幅に下回り0.17%であること、援助が縦割りで複雑だと指摘されていたことなど）を資料集から読み取らせたり解説したりした。
- ③新JICAに援助がほぼ一本化されたこと、新JICAの「新しいビジョン」と「支援の4つの使命」の解説。
- ④人間の安全保障についてのJICA研究所研究員のインタビューを聞かせる。

2 時限目：【授業の説明と調査開始】

【プリント②】（〔6〕使用教材参照）を使いながら、これからの授業と日程等を示した。主な内容としては、

(1) 手順

- ①各クラスに援助国を割り当てる。
 - A、B組：バングラデシュ
 - C、D組：モンゴル
 - E、F組：ベトナム
 - G、H組：インドネシア
- ②各班は4人1チームで、1クラス10チームを編成する。
- ③各チームは、社会、経済、政治等、様々な角度から被援助国の現状を分析し、被援助国にとって最適な援助計画を立案する。なお援助対象は、「医療」「教育」「インフラ」のうちから1項目に絞る（ただしインドネシアは、「教育」「医療」の2項目）。資金の上限はない。

④援助計画をまとめ、「準備・後片付け」を含めて各班5分のプレゼンテーションを行う。

☆調査・プレゼン準備の時間として授業時間5時間を与える。授業はすべてPC室で行う。

☆資料を使い、説得力を持たせる。写真や表・グラフなどで現状を視覚的に訴える。問題の背景・理由を考察し、それを解消するための援助を考察する。

☆生徒は、各班のプレゼンを採点する。また採点と別に、当該プレゼンに対してアドバイスを書き、プレゼンターに渡す。

☆採点に外部審査員が加わり、配点は審査員20点、生徒20点の40点満点とする。

プレゼン後の1時間は、審査員による講評と当該国の集中講義を実施する。

⑤授業終了後、レポート「ODAの将来」を提出する。

(2) 評価基準

- ①その国をよく調べ、国民・住民のニーズを具体的に調べているか。
- ②援助計画・内容は実現可能で、実態を解決するか。
- ③発表者の観点がはっきり示され、一貫しており、説得力があるか。
- ④多面的な観点から計画されていて、新たな問題を引き起こさないか。
- ⑤プレゼンテーションの総合評価。

説明終了後、教室が静まりかえり、生徒はインターネットを中心に調査を開始した。

3 時限目：【DVD視聴と調査】

生徒は現実のODAや当該国をイメージできないのでは？ と思い、JICAから「世界とともに生きる」という題名の、ODAや当該国の現地の様子が分かるDVDを借りて、15分程度視聴した。クラスによって実施時間がバラバラになったが、やはりDVDを見て理解が深まったようだ。次年度以降、現地の様子を理解できる教材を作る必要性を感じた。視聴後、生徒は調査を続けた。



真剣な調査風景

4～6時限目：【調査とプレゼン準備】

調査とプレゼンの準備は、基本的には生徒たちの活動に任せた。しかし、生徒たちも初めての活動なので、「この時間にはどのようなことを中心に行えばよいのか」などの、アドバイスや指示が必要だった。

(1) アドバイスの例

授業担当者が各班を回り、

「どんな ODA になりそうかな？」

「質問や問題点はないかな？」

「そのプロジェクトだと・・・という問題が出そうだ」などと、数分ずつ話をした。例えば、

生徒：「バングラデシュは飲み水にヒ素がたまっているようなので、それを取り除く機械等を援助しようと思っています。」

教員：「それはよいが、飲み水の問題は、ヒ素を取り除くパターンと、根本的に地下水にヒ素が流れ込まないようにするパターンがあるよね。」

生徒：「あ！」

などのやりとりがあった。

(2) 指示

必要に応じて指示を行った。例えば、

- ①現地情報が足りない班には、幕張にある日本貿易振興機構アジア経済研究所の図書館や当該国の交流センター、大使館などと連絡をとるよう指示した。問合せ先によって対応は様々であったようだが、特に日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館の対応はとても丁寧で、いろいろな資料を入手したようだ。電話でも質問に答えていただいたり、

研究員へアポイントを取って会いに行く班もあった。

- ②病院を建設するような、「境界」の事例は、医療・インフラ整備どちらに分類してもよい。

- ③すでに行っている ODA に近い内容や発展する内容を提案しても良いが、できれば新しいもの考えることを指示した。

- ④現地のニーズとは、政府、地方政府、住民、その中でも生活困窮者・・・どこに焦点を当てるのかをはっきりさせることを指示した。

- ⑤現実的には、「これだけのお金を渡すので教員を増員しなさい」という ODA はあり得るが、今回は具体的な「増員の」内容を提案することを指示した。

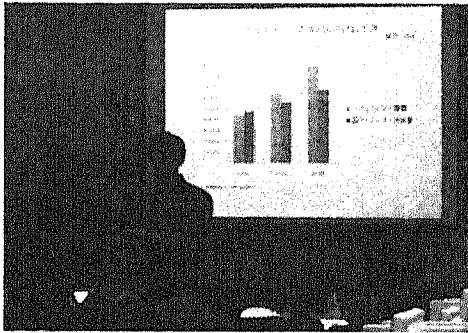
- ⑥援助プランの「資金」を基本的に削除した。例えば、「最新設備の病院」建設にいくらかかるかは、調べるのに時間がかかり、今回の授業の目的から外れていると考えたからである。また、他国の援助とのバッティングを調べるのも、被援助国の援助受入担当の HP まで見つけなければならず、かなり困難を伴うので、これも事実上削除した。

7時限目：【プレゼンテーション】

各班 5 分のプレゼンテーションを行った。4 人のローテーションで説明する班や、1 人が説明して残りの 3 人が PC 操作や自作の矢印で提示を行う班など、バラエティーに富む発表が続いた。審査員と共に生徒も採点するが、同時に、生徒たちは、「コメント（あなたの班のプレゼンは、ここに工夫が見られた、この点をもう少し丁寧に説明してくれると分かりやすかった、等）」を講評用紙に書いて発表者に渡し、発表者が自分達のプレゼンを振り返ることが出来るようにした。このコメントは、1 学期に実施した「ディベート」でも行っており、慣れているせいか「建設的なコメント」が多かった。



プレゼン風景1

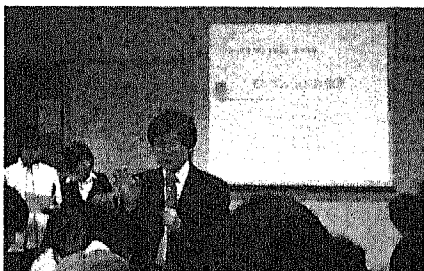


プレゼン風景2

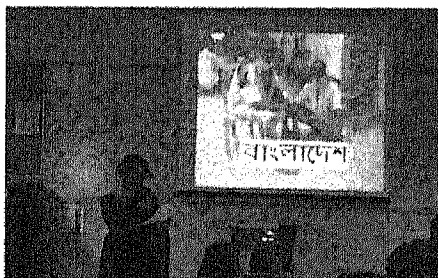
8時限目：【講評と講義】

審査員から各班のプレゼンテーションへの講評と当該国の講義を行ってもらい、生徒たちは自分達の発表をさらに振り返ることができた。現地で生活していた審査員からのコメントと講義は、当該国への十分な理解を生み、生徒の評価が高かった（C、D組のモンゴルは授業担当者が行った。下記掲載の写真を使って講義を行ったが、他の審査員に比べて評価は低かった。次年度の課題である）。

【講義風景】



【授業担当者によるC、D組への講義】



【外部審査員講義】

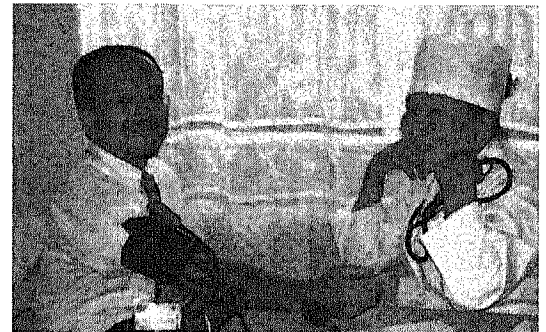
【モンゴルの講義で使用了写真の一部】



【ウランバートル】「モンゴルにビルが！車が！！」と相当驚いていた。



【第4火力発電所】アスベストが目の前に！



【医療】基礎的な器具すら足りない



【農業】食糧自給率を高めるプロジェクト

【4】授業実践を終えて

授業実施後、無記名のアンケートを行った。

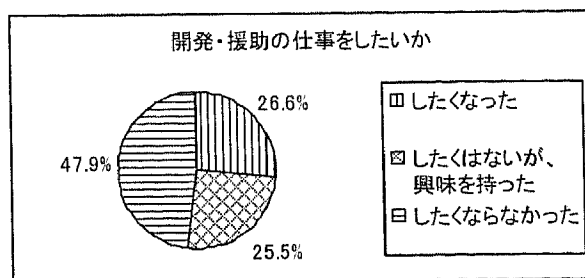
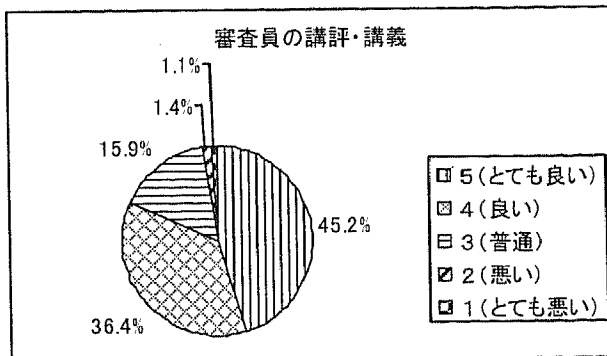
アンケートによると、授業以外の準備時間は各班平均6.1時間で、準備を相当行っていたことが分かる。外部審査員の講評・講義については下記グラフの通りで、生徒の興味・関心を高めた。審査員の

講評・講義に対して、「現地の目線であったり、いままで見えていなかった視点での講義で驚きだった（83名：記述欄の概ね同様の意見を集約した数）」「現地の情報や実体験に基づく話で説得力があった（68名：同上）」などのコメントがあり、生徒たちを揺り動かしたことが分かる。

この授業で何を得ることが出来たかという質問には、「世界の格差の現状を知り、ODAの活動を理解・注目するようになった（122名：同上）」「視野が広がり、多面的なものの見方が出来るようになった（31名：同上）」などのコメントがあった。また、開発・援助の仕事をしたくなりましたか、という問には、過半数が肯定的な解答をした（下記グラフ参照）。これら2つの結果から、この授業の目的はほぼ達成されたと考えられる。

反面、反省欄には、「信憑性のある資料が乏しく、考えていたようには資料が集まらなかった」「調べた資料を、うまく使いこなせなかった」「パワーポイントの作成が難しかった」などのコメントがあ

り、次年度以降の課題となった。また、授業を見に来た多くの先生方たちからたくさんのアドバイスをいただいた。次年度以降も改良を加えて、よりよい実践に育てていきたい。



【5】参考文献（引用文献・参考資料）

- 『詳説 政治・経済』 藤井剛 山川出版 2008
- 『資料 政・経 2009』 東学 2008
- 『地球の歩き方 モンゴル』 ダイヤモンド社
- 『JICA ホームページ』（<http://www.jica.go.jp/about/index.html>） 独立行政法人国際協力機構
- DVD 『世界とともに生きる』 独立行政法人国際協力機構

【6】使用教材

【プリント②】

ODAを計画しよう！

- 手順
 - 各クラスに援助国を割り当てる。
 - A組 バングラデシュ、B組 パンタラデシュ、C組 モンゴル、D組 モンゴル、E組 ベトナム、F組 ベトナム、G組 インドネシア、H組 インドネシア
 - 各クラスはA～Hチームで、10チームを編成する。
 - 各チームは、社会、経済、政治等、様々な角度から被援助国の現状を分析する。
 - 立派なプレゼン準備の時間として授業時間4～6時間を与える。
 - 全てPC室(ただし、第1と第2を併用する)で作業すること
 - 被援助国によって最適な援助計画を立案する。なお援助対象は、「医療」「教育」「インフラ」のうちから1項目に絞る(ただしインドネシアは、「教育」「医療」の2項目)。資金の上限はない。
 - 援助の形態は「二国間援助」とし、日本が直接、相手国に「有償資金協力」「無償資金協力」「技術協力」等を行うものとする。
 - 援助計画をまとめたプレゼンテーションを行う。
 - プレゼンテーションの時間は、「準備・後片付け」を含めて各班5分とする。
 - プレゼンの媒体は、PC又は模造紙とする。
 - 後援者側は、リサーチ、プレゼン側面の内容、模造紙作成等、手分けをすること。
 - オーディエンスは、各班のプレゼンを採点する。また採点と別に、当該プレゼンに対しアドバイスを審査員とプレゼンターに渡す。
 - 採点者は、専門家・教員各10点・生徒20点の40点満点とする。
 - 採点日には、JICAの専門家が行く。プレゼン後の1時間は、コメントと当該国の集中講義を実施する。
 - 授業終了後、レポート「ODAの将来」を提出する。
 - 各クラス1位のプレゼンター(合計8組)は、学年集会用プレゼンテーションを行う(授業の前後で3月の予定)。
- プレゼンのフォーマット
 - その国を調べる。
 - その国に何が足りないのかを調べる。
 - 国民・住民のニーズを調べる。
 - 援助の援助と衝突しないか調べる。
 - その援助が、実現可能か調べる。
 - その援助で、足りない点を調べ、解決できるならば方法を考える。
 - 可能なならば、「人間の安全保障」の観点を考える。
 - 資料を使い、説得力を持たせる。写真や表・グラフなどで現状を視覚的に訴える。
 - 問題の背景・理由を考察し、そこを解消するための援助を考察する。
- 評価基準
 - その国をよく調べ、国民・住民のニーズを具体的に調べているか。
 - 援助計画・内容は実現可能で、実現を解決するか。
 - 多面的な観点にはっきり示されており、一貫しており、説得力があるか。
 - 多面的な観点から計画されていて、新たな問題を引き起こさないか。
 - プレゼンテーションの総合評価。